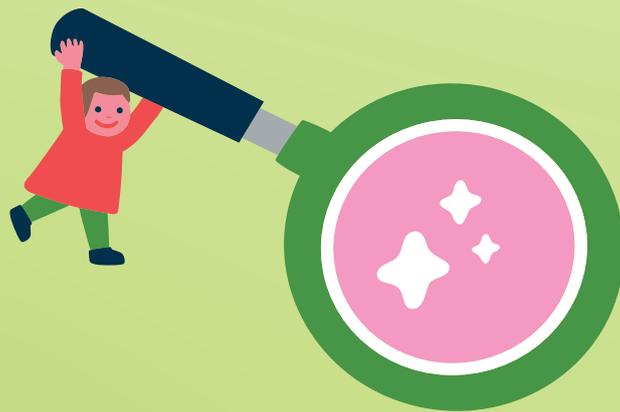


第6章

計画策定の背景



第6章 | 計画策定の背景

1 板橋区の特徴と現況

(1) 区の位置・面積

板橋区は、東京23区の北西部に位置しています。

- 23区では、北区、豊島区、練馬区と隣接しており、北側は埼玉県和光市及び一級河川荒川をはさんで埼玉県戸田市と接しています。
- 面積は32.22km²で、23区中9番目の大きさです。これは東京都総面積の1.5%、23区面積の5.1%にあたります。(令和7年全国都道府県市区町村別面積調)

■板橋区の5地域別の説明

高島平地域
区北部に位置し、都営三田線により都心部への交通利便性が高い。荒川河川敷は板橋Cityマラソンやいたばし花火大会などのイベントを毎年開催。5地域の中で高齢化率が最も高くなっており、日本最大規模の団地である高島平団地を有する地域。

赤塚地域
区西部に位置し、東武東上線や東京メトロなどが利用可能で、川越街道や新大宮バイパスが地域の骨格を形成。武蔵野台地の自然林や農地が残る緑豊かな環境で、年少人口や生産年齢人口の若い世代が多い。赤塚城址や美術館・郷土資料館など文化施設が集積している地域。

志村地域
区の工業の中心地として印刷・機械工業などが立地していたが、近年は住商工混在する市街地を形成。中台地区はすり鉢状の谷地形になっており、台地と低地が複雑に入り組んでいる。ファミリー世帯・2人世帯が多く、志村一里塚などの歴史資源も点在する地域。

常盤台地域
昭和初期に東武鉄道が開発した住宅地で、プロムナード(散歩道)などの独特のまちなみが特徴。世帯数・人口は最少だが、都市型に近い人口構成。東武東上線や川越街道と環状7号線が交差しており、平和公園や都立城北中央公園など緑豊かな環境にも恵まれた地域。

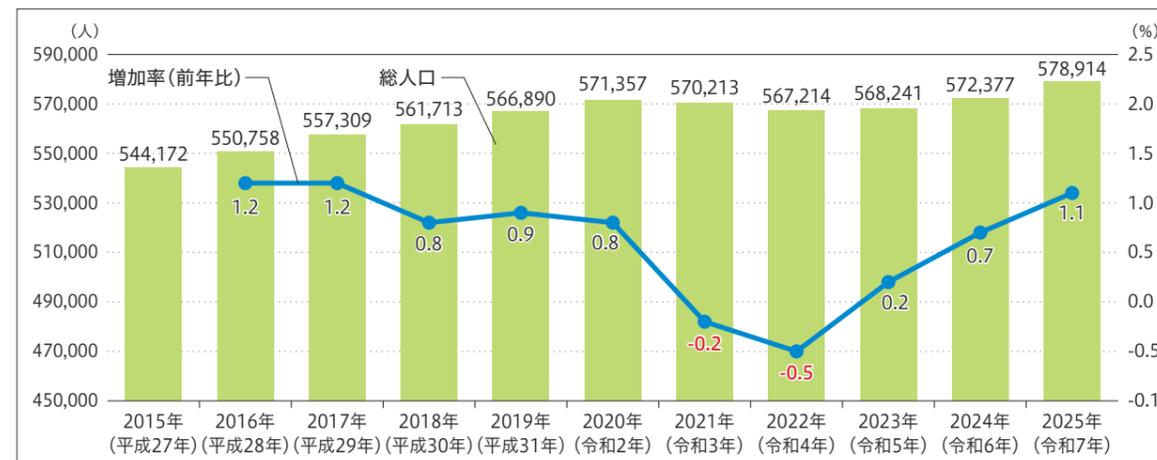
板橋地域
公共施設が集積し、JR埼京線・都営三田線・東武東上線の3路線が利用可能な南の玄関口である。世帯数・人口が最も多く、若年単身世帯中心の人口構成。江戸時代の宿場町から区を中心商業地へ発展。石神井川沿いの桜並木や加賀藩下屋敷跡なども点在する歴史豊かな地域。

(2) 区の人口

区の人口は増加しています。

- 住民基本台帳における近年の区の総人口は、増加傾向となっています。令和3(2021)年、令和4(2022)年の総人口は一旦減少しましたが、これはコロナ禍の影響によるものと推察されます。
- 令和5(2023)年からは再び増加傾向に転じ、令和6(2024)年には、コロナ禍前の人口を上回っています。

■住民基本台帳人口における総人口の推移



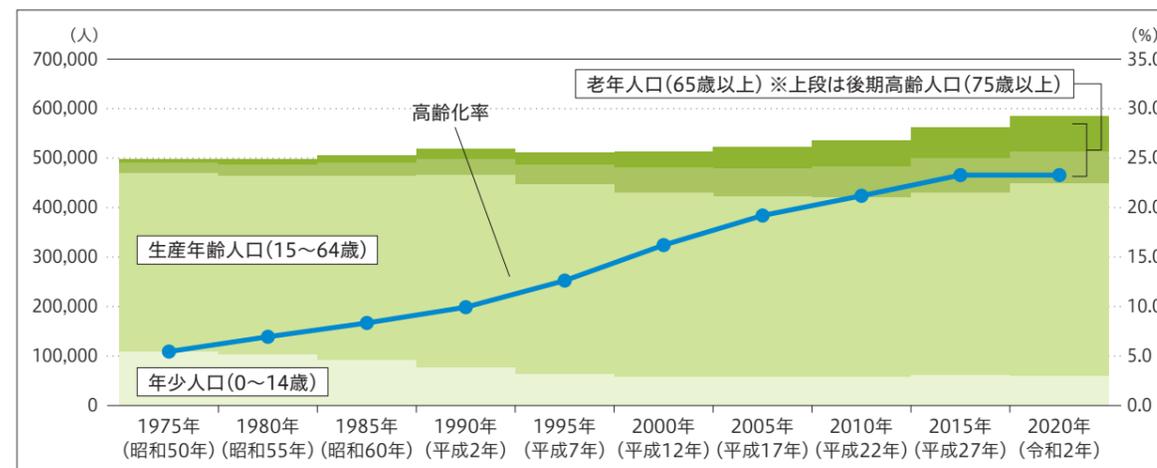
出典:板橋区「住民基本台帳人口」(各年1月1日)

(3) 年齢3区分別人口

65歳以上人口の割合が増加し、高齢化が進行しています。

- 生産年齢人口は増減を繰り返しながら緩やかに増加し、年少人口も平成22(2010)年以降増加に転じています。一方、65歳以上人口は一貫して増加を続け、平成22(2010)年以降は年少人口の2倍以上となり、高齢化が進行しています。

■年齢3区分別人口の推移



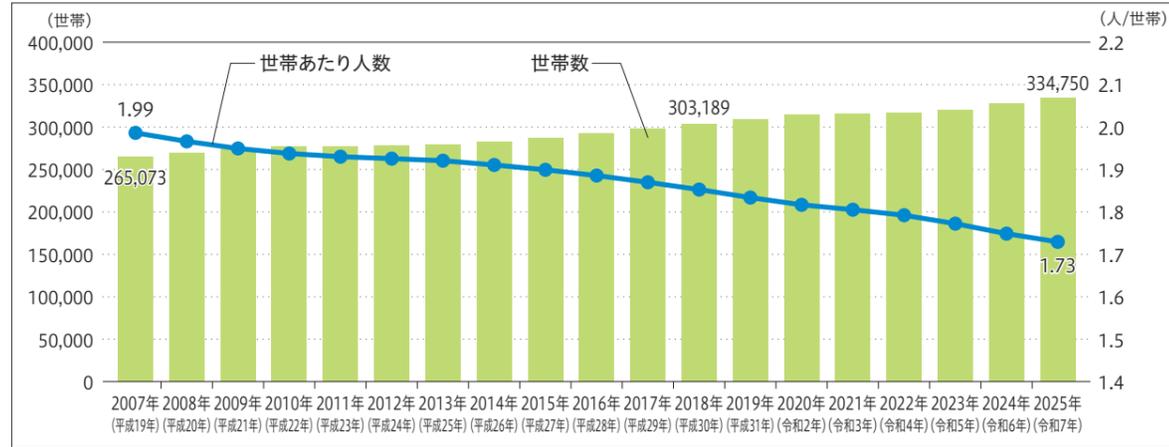
出典:総務省「国勢調査」

(4) 世帯構成

1世帯あたりの人数は減少しています。

- 区内の世帯数は、増加傾向で平成30(2018)年に300,000世帯を超えました。以降も増え続け、令和7(2025)年には約335,000世帯となっています。一方、1世帯あたりの人数は平成19(2007)年には1.99人でしたが、減少傾向が続き、令和7(2025)年には1.73人となっています。

■世帯数と世帯あたり人員の推移



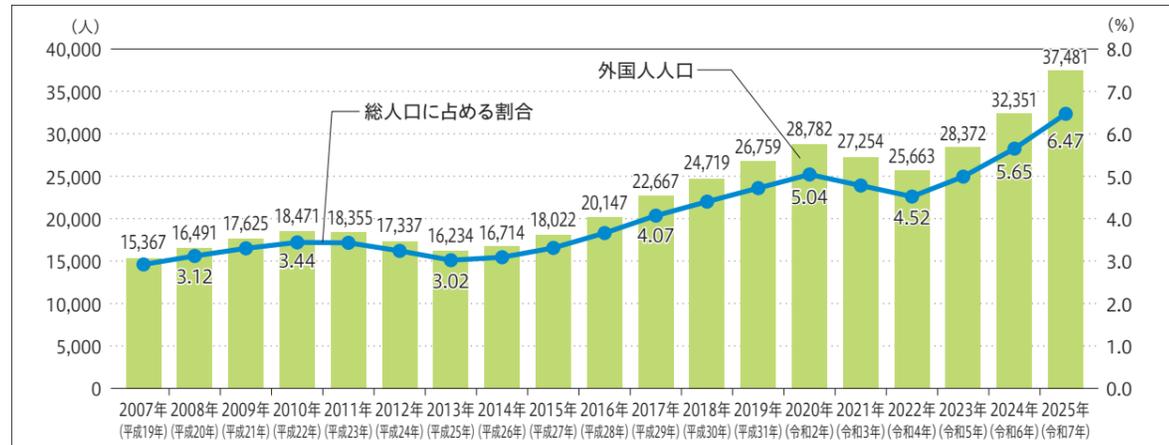
出典:板橋区「住民基本台帳人口」(各年1月1日)

(5) 外国人人口

外国籍の住民の割合が増加しています。

- 外国人人口は平成22(2010)年まで緩やかに増加し、平成23(2011)年から一時減少したものの平成26(2014)年以降増加し、令和2(2020)年には総人口の5%を超えました。コロナ禍の入国制限等の影響か、一時減少しましたが、令和5(2023)年には再び増加し、令和7(2025)年には約6.5%となっています。

■外国人人口と総人口に占める割合の推移



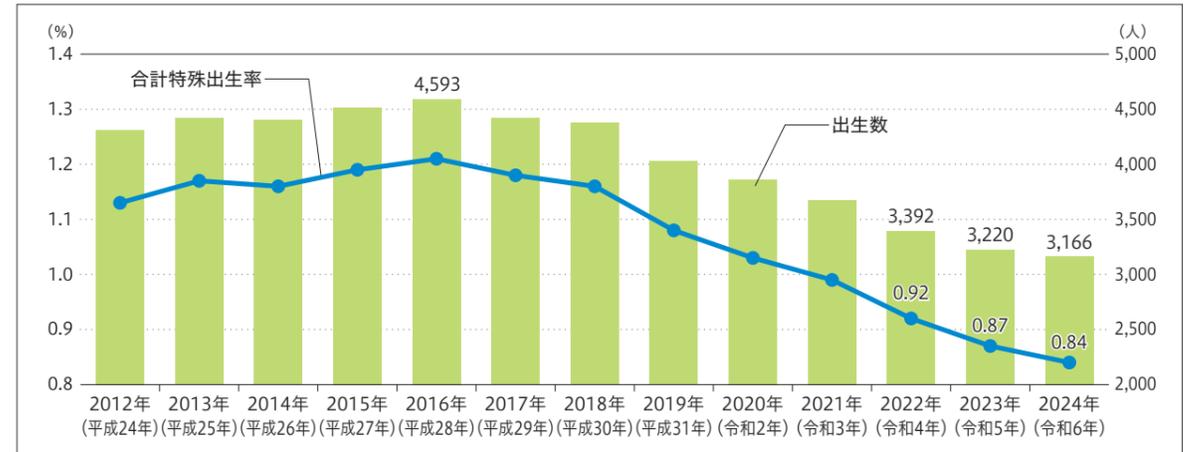
出典:板橋区「住民基本台帳人口」(各年1月1日)

(6) 出生数、合計特殊出生率

出生数と合計特殊出生率は減少しています。

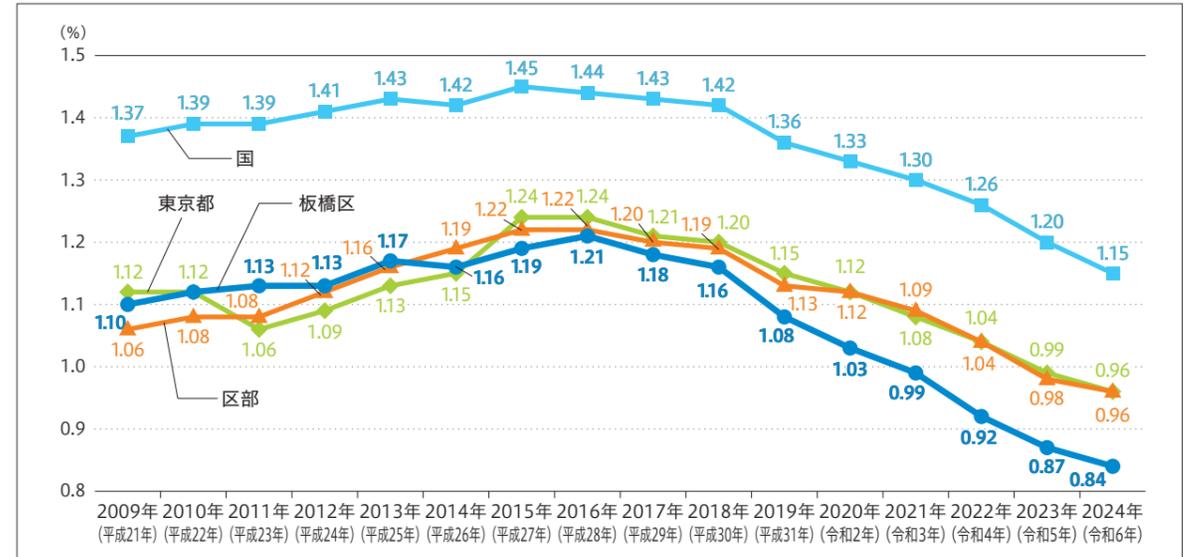
- 出生数は平成28(2016)年をピークに減少に転じています。令和4(2022)年は3,392人となり、平成28(2016)年と比較すると、1,200人以上も減少しています。
- 合計特殊出生率は、平成28(2016)年をピークに減少に転じています。国や東京都、特別区の平均と比較しても低い水準となっています。

■出生数と合計特殊出生率の推移



出典:東京都保健医療局「人口動態統計」

■合計特殊出生率の推移の比較



出典:東京都保健医療局「人口動態統計」

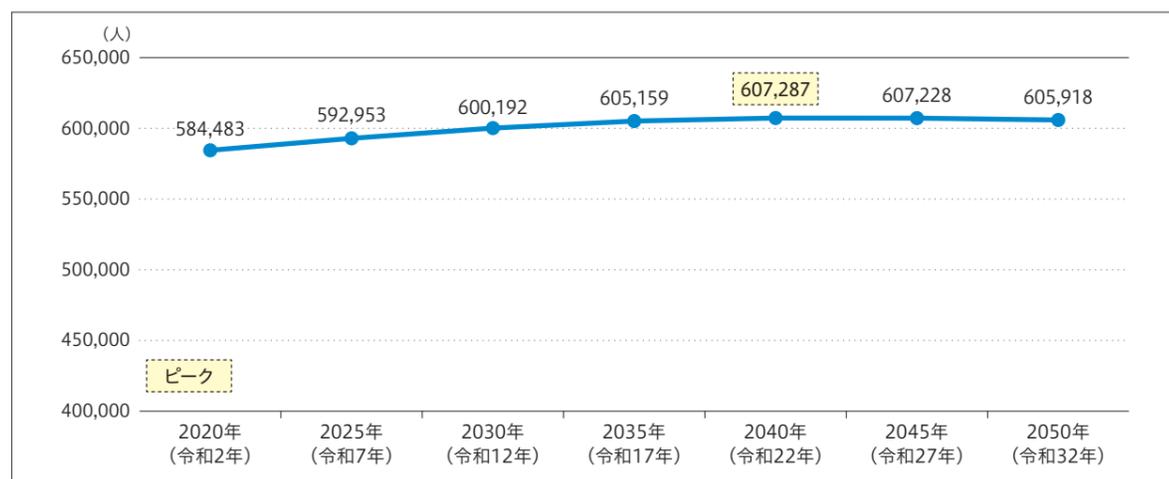
2 人口動向

(1)人口推計

人口は令和22(2040)年まで増加する見込みです。

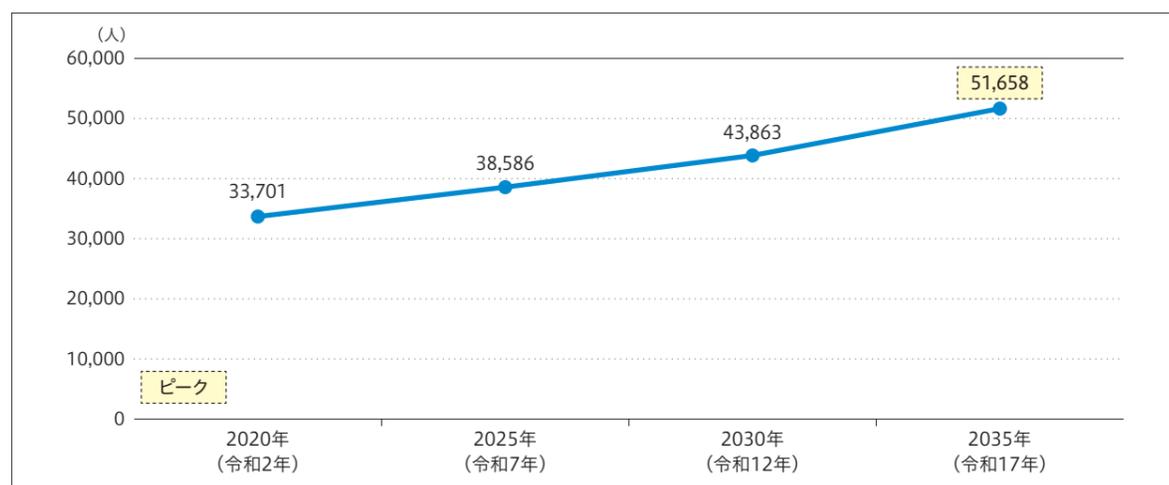
- 国勢調査をもとにした将来の総人口の推計結果を見ると、令和12(2030)年に60万人を突破し、令和22(2040)年にピークを迎え、その後、減少に転じる見込みです。
- 外国人人口の推移は、令和17(2035)年には5.1万人を超え、令和2(2020)年と比べて約1.8万人増加し、総人口に占める割合が、約8.5%となる見込みです。

■区の総人口の将来推計



出典:板橋区「板橋区人口ビジョン(2025年～2050年)」

■区の外国人人口の将来推計



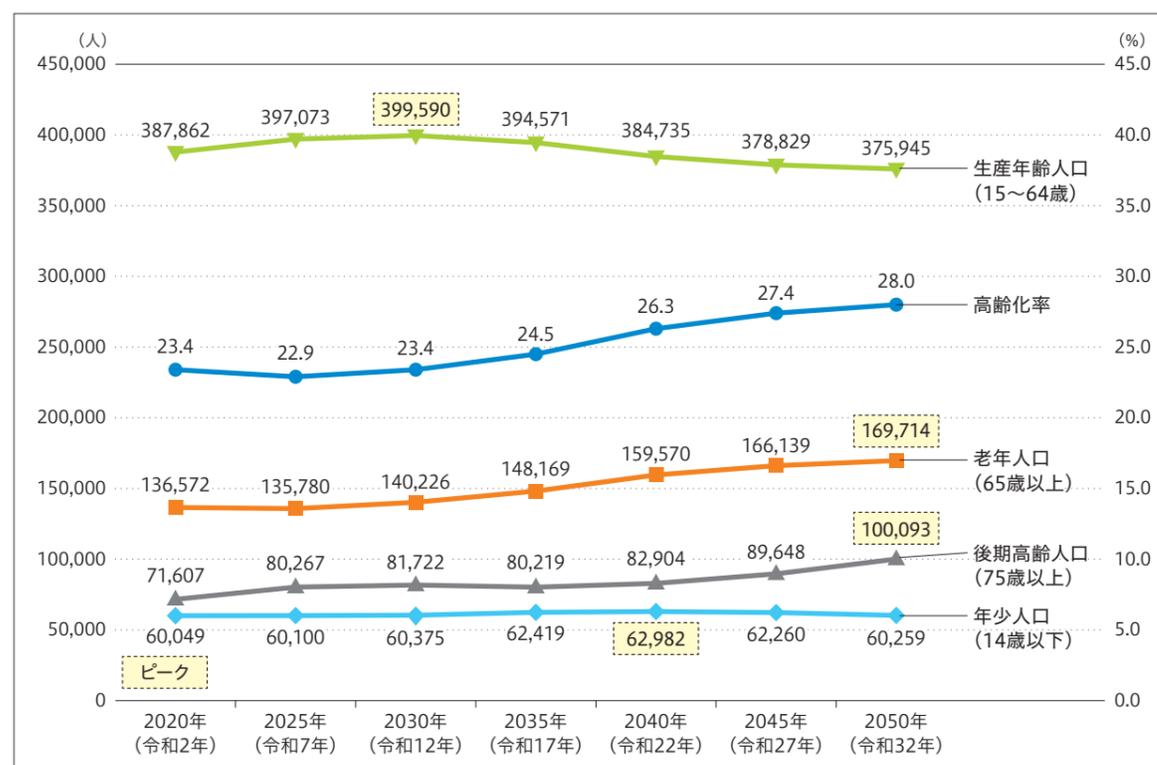
出典:板橋区「板橋区人口ビジョン(2025年～2050年)」

(2)年齢3区分別の人口推計

生産年齢人口のピークは早く、 老年人口は増加し続ける見込みです。

- 年齢3区分別人口を見ると、年少人口は総人口と同じく令和22(2040)年にピークを迎え、その後減少に転じる見込みです。
- 生産年齢人口のピークは総人口よりも早く、令和12(2030)年に到来し、令和32(2050)年までに約2.4万人減少する見込みです。
- 一方、老年人口は、令和7(2025)年以降、令和32(2050)年まで増加し続け、令和2(2020)年と比べて約3.3万人増加し、17万人近くとなり、高齢化率は28.0%となる見込みです。

■年齢3区分別人口の将来推計



出典:板橋区「板橋区人口ビジョン(2025年～2050年)」

3 区民意識意向調査の結果

(1) 区の住みやすさなどに関する満足度

区民の暮らしなどに対する満足度は、上昇が続いています。

- 令和7年度板橋区区民意識意向調査の結果を見ると、住みやすさ、定住意向、区への愛着・誇りに関する区民の満足度は、10年前に比べて高まっています。

「住みやすい」と答えた区民の割合



令和7(2025)年 **95.3%**
平成27(2015)年 **93.8%**

「区に愛着を感じる」と答えた区民の割合



令和7(2025)年 **84.1%**
平成27(2015)年 **76.4%**

「今後も住み続けたい」と答えた区民の割合



令和7(2025)年 **86.4%**
平成27(2015)年 **84.7%**

「区に誇りを感じる」と答えた区民の割合



令和7(2025)年 **49.8%**
平成27(2015)年 **39.1%**

(2) 区民が特に重要と思う施策

子育て施策は特に重要と考えられています。

- 区民が特に重要と思う施策を見ると、令和7(2025)年の調査では、子育て、介護・高齢福祉・見守り、防犯、防災、緑・公園・景観が上位5位までに挙げられています。子育ては平成29(2017)年以降、1位であり、子育て世帯を中心に関心が高いことが伺えます。合わせて介護・高齢福祉・見守りも常に高い順位であることから、少子高齢社会に対する課題認識が伺えます。また、防災が少しずつ順位を上げてきており、昨今の風水害や地震などへの備えに関しても関心が高くなってきていることが伺えます。

